



今回は課題研究・フィールドワーク発表会（1年生）の報告です。

◇ 1年生課題研究テーマ「インバウンドを岐阜へ」

日 時：2019年2月19日（火）9：00～12：30

場 所：関市文化会館

参加者：1・2年生

内 容：テーマ設定についてのプレゼンテーション

クラス代表発表

講評 中京大学 坂田隆文教授



1年生は「インバウンドを岐阜へ」というテーマで研究してきました。今回の発表会では、各クラスの代表が研究成果をもとに提案をしました。

坂田先生からは「自分で気が付かない課題に気付ける場、失敗しても失敗が挽回できる場が高校です。もっと失敗し、課題を発見して、もっと経験をしてください。SGHの活動だけでなく、授業や部活動を通して経験を積み、自らの糧にしてください」という言葉をいただきました。

◇1年1組 岐阜空レストラン

私のグループでは和食でインバウンドを呼び込むべく、岐阜空レストランというテーマを設定しました。岐阜の農作物を外国人が収穫し、調理し、おいしく食べる、といったプランを提案しました。このプランは日本の家庭料理に興味を持つ外国人をターゲットにしており、英語でコミュニケーションをとることが必要です。

テーマを研究するにあたって気づいた事は、少しのひらめきからたくさんのアイデアが生まれることです。何回も集まって話し合いをし、互いに質問しあってより濃い内容にしようと努力しました。その過程で、自分たちの内容を客観視することの大切さを感じました。

発表当日は、良い緊張に包まれながら、自分たちの主張をハキハキと観客に発表することができました。大勢の人の前で話すときは、観客を退屈させないようエンターテインメント性が必要となります。面白さがたくさん詰まった、かつ、論理的なプレゼンテーションを作り上げるのは簡単なことではありませんでした。ですが、それを考えていく中で自分たちの見解が広がり、どんどん良いものになっていくことがとても楽しく、SGHならではの経験になりました。



◇1年2組 美濃和紙の扇子



僕たちの班は、外国人観光客を対象とした美濃和紙を使った扇子づくり体験を提案しました。この体験は、外国人の方に実際に紙漉き体験をしてもらい、その漉いた紙で世界に一つだけのオリジナル扇子を作ってもらおうという体験です。

僕たちは美濃和紙の扇子を提案するにあたって、フィールドワークへ行って美濃市の観光に関する情報を集めました。そこから得たデータから、ターゲットを絞ったり、最終目標を設定したりしたのです

が、このフィールドワークで集めた情報から地元の観光事業について知らなかった事を知れたり、こうすればもっと良くなるのではないかなという考えを持つことができました。また、SGH 研究を通して、今までなら考えなかった地元の事を考え学ぶことができました。「伝える」という面では、パワーポイントの作成の中で苦労がありました。僕たちの発表の中で、和紙について説明する場面があります。その時、パワーポイントで表示する文字や画像などによって、どのように和紙の特徴を表現するかに苦労しました。パワーポイント作成を通して、視覚から伝わる情報で、話の内容をいかに分かりやすくし、説得力を持たせるか、ということ考えることができました。

テスト期間と重なり、セリフを覚えたりパワーポイントで指摘を受けたところ直したりするのがとても大変でしたが、自分たちで課題を見つけそれについて調べ、発表するという普段なかなかできない経験ができてよかったです。また、本番はとても大勢の人の前での発表だったのでとても緊張したのですが、自分たちの研究の成果をしっかりと伝えることができたので良かったです。

◇1年3組 Center of Japan 長良川鉄道の旅

私たちは「Center Of Japan ～長良川鉄道の旅～」というテーマで課題研究に取り組んできました。研究を進める中で、長良川鉄道沿線の街である郡上や美濃の市役所を訪れて現在の観光のポイントについて考えを深めるとともに、散策を通してそれぞれの街の良さを発見することが出来ました。最後には、それらの経験やデータをもとに、私たちなりのツアーを組み、またこれからの岐阜県が観光においてどのような役割、価値を担っていくべきなのかについても一つの結論を導くことが出来ました。



SGH を通して苦労したことは、岐阜県という漢字すらわからない人が多い過疎地域にインバウンドを呼び込むという課題に対して答えをもとめられたことと、パワポの文字などの大きさなどを何度もなおしたことです。

練習を重ねてむかえた発表でしたが、ステージの上に立つと、やはり緊張しました。その中で私たちは、

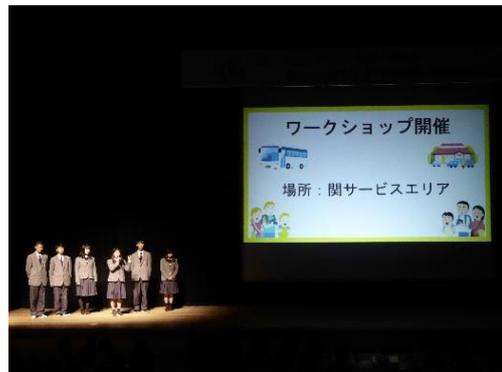
夏休みから時間をかけて調べ、意見を出し合いまとめた成果を自信を持ってプレゼンすることが出来ました。また、中京大学の坂田先生からご講評をいただき、より良い伝え方を学ぶことが出来ました。

◇1年4組 通過型観光地計画

私たちのグループのテーマは、白川郷や飛騨高山への旅行者をターゲットとした通過型観光地計画です。白川郷や飛騨高山から空港へ向かう途中で、関に寄って観光してもらう通過型観光地を提案しました。

私たちは現在の関市の状況を知るためにも、関市産の刃物を使った新感覚アートであるシャインカービングを利用したワークショップを11月に開催しました。これはたくさんの人に関心をもってもらうきっかけにもなったと思います。ワークショップをする上で、シャインカービングを考案された義春刃物様と何度も打ち合わせを行いました。ビラの制作や配布、サービスエリア内での放送、細かい詳細の決定など、たくさんの苦勞がありました。が、全てよい経験になったと思います。

発表を終えて、関市の絶妙な位置に着目した通過型観光地計画の内容がわかりやすく伝わったのであれば、嬉しく思います。



◇1年5組 INGRESS を使って誰も知らなかった観光スポットを開拓しよう！

私たちは INGRESS というスマホゲームアプリを使って外国人観光客を岐阜県に呼び込むことを提案しました。INGRESS とはポケモン GO の前身であり、観光地の情報やマップとしての機能もついており観光アプリとして利用することができます。

私たちはフィールドワークで高山に行ってきました。そこで外国人観光客に話をきくと INGRESS を知っている人がいませんでした。これでは私たちの研究テーマは実現できないのではと困惑してしまいました。しかし、班長が中心となり岐阜県に呼び込むターゲットや広告方法を工夫したところ最初に考えていた提案よりもより説得力のある現実的な提案が出来たと思います。私たちの思い通りにはいかず課題にぶつかってもその課題をどう克服するかが大切だと感じました。

私たちの発表で INGRESS を使ったインバウンドに興味を持ってくれる人がいたら嬉しいです。



◇1年6組 タイルでインバウンドを岐阜県へ



私たちは岐阜県が生産量日本一のタイルでインバウンドを呼び込めないかと考えました。自分たちでタイルについて調べたり、外国人の方のタイルへの関心を知るため多治見市にあるモザイクタイルミュージアムに行きました。その結果、中国、香港、台湾の旅行会社のツアーの影響や、外国人観光客の方の SNS をみて来る方がいるため月に約100人ほどがいらっしゃることが分かりました。分かったことを踏まえて、私たちは3つの方法でモザイクタイルミュージアムにインバウンドを呼び込もうと考えました。

1つ目はモザイクタイルミュージアムに来ていただいた外国人観光客の方に SNS で広めてもらうことです。

2つ目はガチャガチャを使用してタイルに対する関心を持ってもらうことです。

3つ目はタイルで世界的名画や、日本のアニメなどをモザイクアートで表現することで関心を集めることです。この方法で私たちは岐阜県へ、モザイクタイルミュージアムへインバウンドを呼び込めると考えています。

私たちは活動をする中でグループ内で意見をまとめ、どのように表現するかということが大変でした。しかしそれをみんなで話し合っ解決策を見つけ、改善していくことでグループで一歩いい方法を見つけることができました。このようにみんなで協力することが大切だと学びました。

最初は岐阜県にインバウンドを呼び込めるかがとても不安だったけど、学年代表に選ばれグループで話し合ううちにとても深めていくことができた。なかなかこう言うことを考える機会というのはないので、今回のことを今後の生活に生かしていきたいと思います。

◇1年7組 モネの池 in 板取川

板取のモネの池の現状とどうすればインバウンドができるのかを考えました。私たちはじゃがいもドーナツの味の新開発と交通手段や感想などをのせられるホームページづくりの提案をしました。

自分たちのテーマへのアイデアなどを広げるためにフィールドワークに行ったことはとても良い事だったと思います。また、見つけた問題点に対するインバウンドに向けての課題を考える事に1番苦労しましたが、様々な角度から自分たちのプレゼンを見直して考える事が大切だと学びました。

まさか、自分たちが選ばれるとは思ってなくて選ばれた時はめんどくさいな、と思っていたけれど、時間が経つにつれて取り組みも真面目にやるようになりました。より良いプレゼンになるように準備するのは大変だったけど、発表を終えて達成感がすごくありました。選ばれて良かったと思いました。

